

少年会
おつとめまなび総会
学生会
新入生歓迎会

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

今年、曇天の多いゴールデンウィークとなりましたが、少年会笠岡団では4月29日に本年度のおつとめまなび総会を開催しました。

当日は、朝から雨模様でしたが午前10時の開式時には大勢の少年会員や育成会員で参拝場もいっぱいになりました。

礼拝につづいて少年会員による祭儀式が行われ、おつとめ衣に身を正した少年会員は荘厳な雅楽が鳴り響く中、やや緊張した面持ちながら堂々とつとめました。

祭文奏上では親に感謝すること、これからもなかよく助けあって、将来は立派なようばくに育つことを、親神様・教祖にお誓い申し上げました。

つづいて直轄教会による座り勤め、また各ブロックによるよろづよ八首・十二下りのてをどりが賑やかに、また少年会員らしくはつらつとつとめられました。

おつとめの後式典の部では、少年会長様からの告辞がありました。また、育成会



堂々と祭文を奏上する上原一始君

長様に代わって奥様から少年会員としての日々の過ごし方、親神様・教祖に喜んで頂ける通り方などを、小さい会員にもわかり

笠岡大教会
創立110周年

三年千日スローガン
論達を實踐し、をやの理を戴こう
本年の實踐項目

- 一、おさづけの取り次ぎ
- 一、陽気ぐらし講座と百万軒にをいがけ
- 一、一万人のおぢばがえり

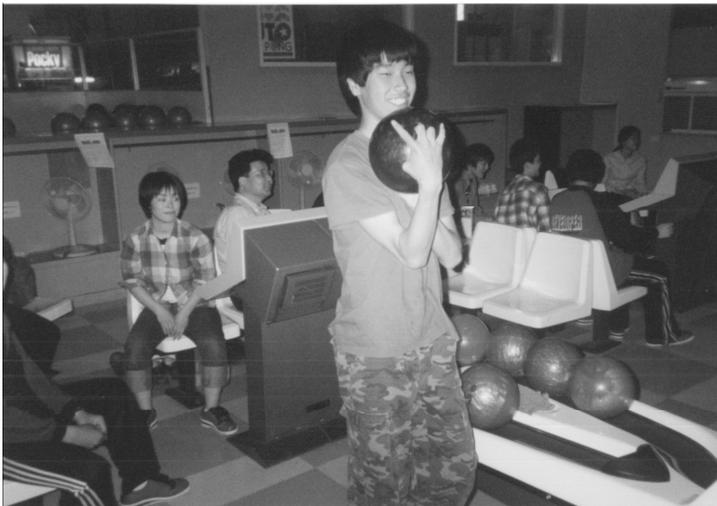
実践項目集計 (3月分)

おさづけ＝	6, 317回
にをいがけ＝	89, 595軒
おぢばがえり＝	1, 025名



講堂でビンゴゲームに興じる家族連れ

やすくお話し下さいました。
その後、婦人会の方たちが作ってくれたおいしいカレーライスをいただきました。
昼食の後、講堂でビンゴゲームを楽しんで午後3時には閉会し、みんなそれぞれにおやつと景品を手手に持ってニコニコ顔で帰りました。
参加者は少年会員281名、育成会員206名、合計487名でした。各教会・各隊のお力添え誠にありがとうございました。



ボーリングで親睦を深める学生たち

また、大教会学生担当委員会では、5月6日(日)笠岡詰所において、おぢばで学ぶ学生を対象にした「新入生歓迎会」を開催し、学生11人と担当委員等7人の合計18人が参加しました。
現在おぢばでは、天理高校1部4人、天理高校2部5人、親里高校7人、教校附属高校2人、天理大学10人、天理看護学院・奈良保育学院(白梅寮)・TLI(天理教語学院)各1人と、係が把握しているだけでも31人の笠岡に繋がる学生が学んでいます。しかし、折角おぢばで学ばせて頂いてい



学生たちに懇ろにお話し下さる大教会長様

ても学校や寮が違えばほとんど触れ合う機会がありません。
そこで数年前から「親睦会」を年に一度開催してまいりましたが、やはり新入生が入ってきた春に歓迎会を催したほうがよからうという意見もあり、入学後一ヶ月位経過し、新しい生活にも慣れたこの時期に、昨年より新入生歓迎会と名付けて開催させて頂いております。
昨年に引き続き、幸運にも大教会長様が丁度おぢばに居られ、学生達にお話しをして下さいまし

た。その中で大教会長様は、「みなさんは試験に合格し、自分が選択してこのおちばで学んでいると考えているかも知れませんが、実は全て親神様のお引き寄せなんです」と述べられ、おちばで学ばせて頂くことの有難さ、おかけ頂く教祖の温かい親心について分かりやすくお聞かせ下さいました。今回の歓迎会には、4月にTLIに入学したばかりである台湾の周雅茹さんも参加されましたが、海外部の宮本君が通訳として活躍してくれましたので大助かりでした。その後は食堂で4つのテーブルに分かれ、「広島風」「大阪風」あるいは「上野風」「相撲部屋風」といった夫々が自慢のお好み焼きに挑戦しました。その全てをお召し上がりになった大教会長様も大変御満悦の御様子でした。さて、昼食の後片付けを済ませた後、残念ながら大教会長様は教務御多忙のため参加されませんでした。田原本町のボーリング場へと移動し、和気あいあいとした雰囲気の中でゲームを楽しみ、午後3時頃解散致しました。

クラブ活動やアルバイト等で参加できなかった人も多く、おちばに在住する学生の約3分の1が参加しただけでしたが、お道の将来を担う若者達が、同じ大教会に繋がる喜びと連帯感を持つことの出来るよう努めさせて頂きたいと考えています。

また、これに先だつて、3月28日に行われた春の学生おちばがえりには、広島・岡山・鳥取より、19名の学生と担当委員等7人の合計26人が参加し、楽しいひとときを過ごしました。

教祖のおやさと講習会を受講して

教祖の親心感謝の喜びを胸に

照雲分教会長 雑賀 明

日々親神様の御守護は申す迄もなく大教会の指針にむかつて通らさせて頂く中、此の度、「教会長おやさと講習会」を受講させていたゞきおちばにおいて心あた、まる親心に接し、諭達を通して真柱様の深いご期待について、第一講、二講、三講と三人の先生方が、御自身の体験談を通して私達教会長としての通り方、心のおきどころをお説き下されその力強さに心が勇みました。親神様の御守護の理の深さ、教祖が身近においてお見守り下され、存命の理をもって私達のおさづけの理のつてお働き下さいます思いをなお一層深く感銘致しました。

三日間の講習を通して特に心に残っているのは少人数での「ねり合い」でした。一つ一つの話題について教会長という立場の者同士が老若ひざを交えて話し合うことで、密度の濃い内容となりました。こうした話合いもおちばならこそと思いましたが、この喜びを「成つてくるのが天の理」と少しでも明るく前向きにとめさせて頂き度いと思えました。

又ビデオでの教会活動に日々勇んでおられる教

会長さん達の姿を見させて頂き自分の信仰はまだくいたらない日々であったと痛感しました。

三日目のシンポジウムでは「勇み立とう教会長」と三人の先生方の体験を通しての思いを聞かせて頂きました。親神様を信じて実行あるのみと思えました。

最後に真柱様より陽気ぐらしの出来る教会内容充実にしつかりとつとめさせて頂くようにとお言葉を頂き教会長として心引きしまる思いが致しました。

私達笠岡につながります教会は大教会創立百十周年にむかつて日々を勇んで通らせて頂き来る十一月二十九日の記念祭には喜び一ぱいの心で参拝させて頂き度いと存じます。三日間意義ある講習会を受講させて頂き有がとつございました。

竜頭の一人として

島中分教会長 内海 安子

教会長おやさと講習会のテキストの表紙を一枚めくると「教会内容の更なる充実を目指し教会長の役割を改めて確認するとともに、世界たすけの使命感を高めることを目的とする」と講習会の主旨を述べられています。

第三次講習受講者は笠岡二八ヶ所の内五ヶ所は女子会長さん。全体的に五十才より七十才が多く在任年数を重ね、たよりになられて新まいの私の目にはまぶしく感じられました。

一日目は第一講「親神様の御守護」・ビデオ・ねりあい。二日目、第二講「教祖を身近に」と第三講「教祖存命の理」と続き、ビデオ・ねりあいが一時間三十分、休憩をはさんで二回行われました。三日目はシンポジウムは壇上で司会者2名と回答者3名の形式で会場からの質問に答えて頂きました。ビデオの方も、里親として沢山の子供さんを預かり明るくみちの子として育てていく姿や、友達を大勢作り地域活動を通じて教会への繋がりをもちつつ、信仰のきずなを深めていく布教を見させて頂きました。他の例もまだありましたが、その中でも自分の心に残ったところは、どのビデオを見ても、会長さん(教会)は明るく勇んだ包容力のある姿でした。子供さん達も大人の皆さんに混って神殿掃除をして、まるで学校の掃除当番のような雰囲気です。自然に身についていました。

教会は用木・信者さん達の心により処と聞かせて頂きました。心を寄せ合い、たすけあい、喜びを作り出す処。

私も、小さな竜頭の一人ですが、教祖を定規として、自分自身も日々誠実の気持ちで通れば、ひのきしんが実行であり、匂い掛けお救いを勇んで実践し続けることで、末代喜びづくめの世界があると信じています。

今、自分たちがあるのは……代々育ての心を持って信仰を続けて下さったご先祖に対して感謝でいっぱいです。今、良い時期に受講させて頂いた事は大変幸せです。

まだ一度もお地場に帰ったことが無い人、天理教を知らない人達も身の廻りには沢山居られます。一生懸命お話し下さった先生方のお話や、班別の練り合いの中での助かった話、あるいは失敗談、ビデオを思い出し参考にして、これからも匂い掛け、お救いに精出し、教祖の用木としてお連れ通り頂きたいと思えます。

大教会だより

◎ 登 用

準 承 事 杉 原 博 之
おつとめ奉仕者 藤 井 昭 子

内 海 安 子
立教164年4月16日付

◎ 職制人事

少年会笠岡団(団長)

中 島 誠 治
立教164年3月26日付

◎ 教会長おやさと講習会第13次受講者

高 屋 神 邊、海松ヶ岡、作 備、福 満、
福 年、引 野、福 昭、福 中、福 東、
福 南、福 順、福 節、福 輝、坪 生、
芦 品、安 那、三 郡、惠 陽、御 野、
香 地 華、真 金、仲 條、稲 倉、大 惠 山。

布教所長夫妻成人講習会

テーマ	実 動	
日 時	6月23日(土) 午後6時	受 付
	～24日(日) 午前11時45分	閉 講
場 所	笠岡大教会	
講 師	相原 義和 先生(高知大教会布教部長・夜須分教会長)	
内 容	①大教会創立110周年へ向かってあなたはどう動いているか ②布教所長である私に対して人はどんな見方をしているか ③うちの会長を立派だと思っているか	
対 象	布教所長夫妻	
受講御供	1, 000円	

四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに泥海中より道具を引き寄せ守護を教えて人間世界をお始め下さったばかりでなく長の年限親心のまにまにお育て下さり成人へとお導き下さいました。しかるに親心を忘れ御守護の有難さを忘れ己の欲望に溺れ挙げ句の果てに身上事情に心を濁し陽気ぐらしからかけ離れて行く人々の姿を哀れと思召されるや天保九年教祖を月日の社とお定めになり「月日にハとのよな事も一れつにみなにをしへてよふきづくめに」と元の理を明かし人々を陽気ぐらしへと導くべくこの道をおつけ下さいました事は誠に有難い極みでございます。以来この道にお引き寄せ頂いた先人始め私共は「人助けて我が身助かる」との御教えのまにまに「つとめとさづけ」で以って日夜たすけ一条に邁進させて頂いております

その中にもこの月は月日の社となられたすけ一条のひながたを自らお通りなされ今尚たすけ一条の先頭に立つてお働き下さっている教祖が御誕生おうまれになられた芽出度い月でございますのでその慶び心を胸に湛えつつ今からおつとめ奉仕者一同明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて四月の月次祭を執り行わせて頂きます

御前には春を迎えた喜びを胸に今日の日を楽しみに寄り集い日頃の御高恩に改めて御礼申し上げます。皆の真実の状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又創立百周年に向け実践項目の実動にもいよいよ拍車が掛かってまいりました。にをいがけにおさづけの取り次ぎにそして陽気ぐらし講座開催にと尚一層勇んで勤めさせて頂く覚悟でございます。加えて一人でも多くの方をおぢばへお連れすべく十八日の教祖御誕生祭の帰参にも力を入れていく所存でございます

更には又二十二日には青年会全部属分会委員長研修会を二十九日には少年会おつとめ学び総会を開催させて頂き道の後継者たる青年層若年層の育成にも力を注いでいく所存でございます

何卒親神様には私利私欲を捨て親孝心一筋にたすけ一条に邁進する皆の真実誠の心をお受け取り下さいます。万たすけの上自由の御守護をお現し下さると共に一人でも多くの人々をこのお道にお引き寄せ下さいましてお望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいます。う一同と共に慎んでお願い申し上げます

ふたごの おこころ

過日のこと、風邪を引いた「痛い」ほんとに痛いのであります。元来、喉が弱くすぐに赤く腫れて咳ごみ声がかすれるのですが不思議と熱には強いのか？いつも微熱程度である。

だがしかし今度の風邪は咳をすると、腹の皮や身体全体が、それはもう痛いのであります。もう何も出来ません、お勤めも寝返りも、それこそ食事や用便さえ痛い痛い苦行なのです。二日間ただ横になって寝るのみの生活になった。

ふと母の言葉を思い出した「風邪を引いたと思えば何でも出来るワ、結構な事や！」と。母は滅多な事では寝ない元気な人！いや最近足腰が弱って：休む材料にしておられるが？御免。私の息子達にも仕事を休んで御用を頼む時など、「風邪を引いたらどうでも休むやろ」である。これは会社も黙認してくれて重宝な理由で、よく使う手であります。

風邪を引いた私は、自分の身から出た「ほこり」であります。その痛さほど埃がこびりついているのだが、「親神様に取って頂いているのや、不足に思うのやないで」と母はその時間かせてくれたのを思い出し、そうやったナ：と回想したら痛みもどことなしか治まった気がする。風邪の菌から身体を防御する機能が備わっているので熱で殺菌したり、咳で吐き出すなどまた、痛いのぞ知覚神経で感じ取り、風邪やとか変だなど解るのであります。こんな事がいつも身体の中で機能しているのです、親神様が身の内に入り込んで、絶え間なく働いてくださっているお陰なのです。だから「親神様のはたらき」に感謝しないといけない訳であります。あまり喜んで風邪を頂きたく無いけど、時々注意？お知らせ？頂くので「お手入れ」と聞かせて頂くのだな。と御礼申し上げた風邪の痛さでありました。

縦の伝道講習会

日 時 6月21日(木) 6月月次祭祭典講話として
 場 所 笠岡大教会
 講 師 高田 薫 先生 (少年会本部委員)
 内 容 少年会員の育成、「こどもおぢばがえり」についての講話
 対 象 教会長夫妻、布教所長夫妻、各隊育成委員長、用木、信者

第 7 2 2 期 修 養 科 募 集 要 項

*** 修養科期間**

立教164年6月1日～8月27日

*** 教 養 掛**

3ヶ月間 中 島 誠 治 (大教会役員・鶴山 分教会長)
 1ヶ月目 吉 岡 孝 彦 (芦 品 分教会長)
 2ヶ月目 余 村 健 (多古浦分教会長)
 3ヶ月目 下 田 輝 夫 (神 村 分教会長)
 助手 貞 清 知 実 (三 郡 分教会)

*** 募集要項**

- ・志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日の昼食後に解散。

*** 教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

*** 参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

*** 携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

*** 服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合わせて行なう。
本 部 御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後におさづけの理を拝戴する者のみ。
「おはなし」	○		
大教会 御供	○		・願書に日付を入れない事。
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。